

岡山畜産便り

2026 1



津山市 内田 健治さん(和牛繁殖)

も く じ

新年にあたってのご挨拶 (一社)岡山県畜産協会 代表理事長 中塚 陽二郎 …………… 1	〔家保のページ〕 岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課の近況をご紹介します 岡山家畜保健衛生所 …………… 14
年頭の挨拶 岡山県農林水産部畜産課 畜産課長 森分 哲彦…………… 2	〔共済フレッシュさん〕 転職からもうすぐ一年を迎えて 備中家畜診療所備北出張所 安藤 明日香 … 16
〔令和7年度座談会〕 耕畜の橋渡し役コントラクターと考える 中山間地域の飼料生産と農地保全 (一社)岡山県畜産協会…………… 3	〔畜産現場の声〕 内田畜産5年目の挑戦～北海道全共を目指して～ 津山市 つやま和牛牧場 内田畜産 内田 健治 …… 17
〔家畜衛生〕 家畜伝染病対策について 岡山県農林水産部畜産課…………… 10	〔生乳検査NOW〕 生乳検査NOW：令和7年度上半期 (一社)岡山県畜産協会生乳検査センター… 18
〔技術のページ〕 牛の発情発見のポイント 農林水産総合センター畜産研究所…………… 12	

謹 賀 新 年

安全・安心な肉用牛・肉豚・鶏卵の生産農場

岡山JA畜産グループ

新見市哲多町田淵1626番地の1

岡山JA畜産株式会社

代表取締役 梶田 謙二

新見市哲多町田淵1626番地1

有限会社 哲多和牛牧場

代表取締役 谷田 宏

謹 賀 新 年



岡山県産牛肉銘柄推進協議会

会 長 藤 原 雅 人

事務局 岡山市南区藤田556-126

全国農業協同組合連合会岡山県本部畜産部畜産販売課内

T E L (086) 296-5033 F A X (086) 296-5089



一般社団法人岡山県畜産協会
代表理事会長 中塚 陽二郎

新年にあたってのご挨拶

新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかな新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝いたします。

昨年は、皆様ご承知のとおり自民党総裁が代わり、女性初の高市総理のもと新たな内閣が発足したところであります。農業政策についても、鈴木農林水産大臣には「生産者が先を見通せる農政を実現したい」との力強いお言葉をいただいたところであり、農林水産業が持続可能な産業として、食の安全安心、安定供給を通じて国民の豊かな暮らしに貢献できるよう、万全の対策を講じていただければ幸いです。

さて、令和7年11月28日付けで公表された2025年農林業センサス結果の概要（概数値）では、農業経営体数は、2020年と比較して23%減となり、高齢化等による個人経営体の減少が加速しています。一方、好条件地では法人経営体が増加しており、規模拡大が進展していることも見受けられます。

高齢化や若者の都市部流出で農業の担い手が減少する中、農山村地域の生活基盤の維持、活性化のためにも、地域全体で話し合い、一致団結して課題に取り組むことが望まれます。

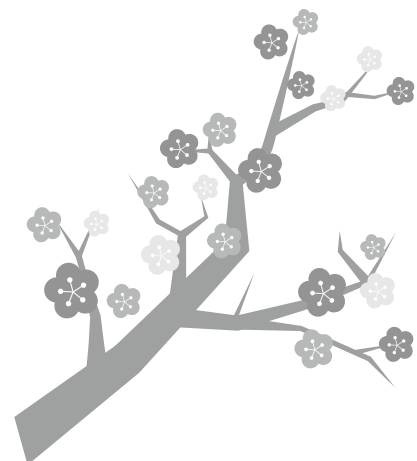
畜産業においても、規模拡大等により生産性向上を図る意欲のある経営体を育成し

ていくことが重要であり、他産業並みの収益を確保できる環境づくり、担い手が希望をもてる実効性のある対策を国には明確に示していただきたいと願っています。

畜産協会としましては、飼料価格や諸経費が高騰し経営状況が悪化する家族経営体を中心に、経営診断を通じて生産コストの低減や生産性向上の取り組みを支援するとともに、適切な融資計画、畜産クラスター等の各種補助事業への支援、価格安定対策、ワクチン接種による疾病発生防止等に引き続き努めてまいります。

また、国や県、JAグループ等とも連携を密に、担い手の確保、女性の経営参画推進、県産畜産物の消費拡大、適正価格への理解醸成などに取り組んでまいります。

本年が、畜産業の発展と、皆様にとって希望ある輝かしい年となりますよう心からご祈念申し上げます。





岡山県農林水産部
畜産課長 森分 哲彦

年頭の挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては新年を健やかに
お迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は県畜産行政の推進に格段
の御理解と御協力をいただき、誠にありが
とうございます。

昨年を振り返りますと、10月に北海道で
開催された第16回全日本ホルスタイン共進
会第18部（ジャージー種未經産）において、
岡山県からの出品牛が優等賞1席を勝ち取
るという喜ばしい出来事がありました。

一方家畜衛生の分野では、懸念されてい
たランピースキン病の発生はありませんで
したが、豚熱が10月の群馬県での発生でつ
いに国内100例目に達しました。県内でも
野生イノシシで本病の発生が確認されて以
降、感染確認区域が県下の広い地域に拡大
しており、養豚場内へのウイルス侵入リス
クが高い状態が続いています。高病原性鳥
インフルエンザについても10月には北海道
の養鶏場で発生し、その後も複数の発生が
確認されており、今冬も予断を許さない状
況となっています。日頃からこれらの家畜
伝染病の発生予防に努めているところですが、
万一の発生時には関係者の皆様方の
御協力が必要となりますので、よろしく
お願いいたします。

さて、岡山県の畜産業は県内農業産出額
の約5割を占める基幹部門ですが、人口減
少による国内市場の縮小や労働力不足、飼
料価格高騰など国際情勢の影響による生産
活動の低下に加え、主食用米の高騰による
稲WC S等水田飼料作物の生産量減少な
ど、依然として厳しい状況が続いています。

県ではこれらの課題に的確に対応するた
め、「第4次晴れの国おかやま生き生きプ

ラン」、「おかやま農林水産プラン」等に基
づき、新規就業者の確保・育成、生産基盤
の維持・強化、生産性の向上、家畜衛生対
策、畜産環境保全対策、新技術の開発及び
普及等を総合的に展開することで、安全で
高品質な畜産物の安定供給に努めていると
ころです。

また、生産された県産畜産物の需要拡大
のため、「おかやま和牛肉」、「岡山市場発F1
牛肉清麻呂」及び「ジャージー牛乳・乳製品」
をはじめとする県産畜産物のブランド化や
消費拡大対策も引き続き推進しています。

昨年4月には国の「酪農及び肉用牛生
産の近代化を図るための基本方針」が示さ
れました。今回の基本方針では5年後の令
和12年度を目標年度として、生乳や牛肉の
需要拡大への取組と需要に応じた生産の推
進、国産飼料の生産・利用拡大などの方針
が示されています。これを受け、県として
は本県畜産の目指すべき姿を描く県計画を
令和7年度内に策定し、地域の実情に応じ
た畜産業の持続的な発展や経営基盤の強化
に向けた取組を積極的に進めてまいりたい
と考えています。

こうした取組は生産者と関係者、行政が
連携して取り組んでこそ効果が表れるもの
であり、皆さま方にはより一層の御協力と
御支援をお願いいたします。

最後に、令和8年は午年です。前へ駆
けるようなエネルギーを象徴する午年は、
チャレンジや飛躍にぴったりの年とされて
います。この午年にあやかり、厳しさが続
く畜産情勢の中にあってもこの難局にチャ
レンジし、力強く飛躍する年になりますよ
う皆様の御健康と御多幸を心から祈念申し
上げまして、年頭の挨拶といたします。

〔令和7年度座談会〕

耕畜の橋渡し役コントラクターと考える 中山間地域の飼料生産と農地保全

一般社団法人岡山県畜産協会

本県の農地面積は中山間地域を中心に、農家の高齢化や担い手不足等により減少しています。農地を維持し有効活用することは、食料生産にとどまらず、地域社会や文化の維持・継承に不可欠であり、農地保全には地域全体での一体的な対策が求められます。

このような中、本県では、コントラクターの協力のもと、耕畜連携による稲WCS等の飼料作物の生産・利用を推進してきました。その結果、稲WCS等は水田農家の転作作物として、また、畜産農家にとって輸入飼料の代替として定着してきています。

そこで、中山間地域における今後の耕畜連携による飼料生産と農地保全の方向性を検討するため、耕畜の橋渡し役を担うコントラクターとともに意見交換を行いました。

出席者（敬称略）

三上 晴久（新見市 コントラクター）
石原 聖康（津山市 コントラクター）
高山 勝好（津山市 コントラクター）
田邊 晃次（津山市 耕種農家）
永禮 淳一（津山市 酪農家）
有元 弾（晴れの国岡山農業協同組合）
檜尾 康知（おかやま酪農業協同組合）
岡田 英樹（岡山県農林水産部畜産課）
朝倉 麻由子（岡山県農林水産部畜産課）
藤原 裕士（（一社）岡山県畜産協会）

トラクターによる収穫体制のもと、津山地域で平成12年から生産が始まり、転作作物として中山間地域を中心に定着している。現在、主食用米価格が上昇し、水田政策の見直しが検討されている中、耕畜の橋渡し役を担うコントラクター、耕種農家、畜産農家、関係機関の皆様とともに、農地減少が進む中山間地域における、今後の耕畜連携による飼料生産と農地保全のあり方を考えたい。皆様には、それぞれの立場や業務から感じている事や考えている事について、率直な意見をいただきたい。

【座長】

池見 亮（（一社）岡山県畜産協会）



【開会挨拶】



藤原：本県は耕地面積のうち、中山間地域が57.5%を占めており、条件不利地域でいかに農地を維持していくかが大きな課題である。稲WCSはコン

【自己紹介】

石原：アグリアシストシステム（株）の代表で、岡山県コントラクター協議会の会長、美作地域コントラクター協議会の会長をしている。また、津山市の酪農家でもある。

三上：（株）ウエストカントリーの代表。新見市を中心に稲WCSの収穫作業をしているが、令和6年から津山地域の収穫も行っている。新見市の建設業者、西村工業（株）の代表を務めている。

高山：美作地域コントラクター協議会の副会長、津山地域飼料生産コントラクター組合の組合長、綾部コントラクター組合の組

合長、(農)綾部西の組合長等を務めている。おかやま酪農業協同組合退職後、退職前からも含めて地域の中で色々な活動しており、毎日忙しくさせてもらっている。その中で、コントラクターや稲WCSを重点的に取り組んできた経験がある。

永禮：津山市で酪農をしている。もう一つ、隣に座っている田邊さんとともに、耕種農家と畜産農家6人で農地を有効活用し、農産物の生産販売を行う(一社)LAアライアンスの代表を務めている。

田邊：(株)いきこと農場の代表。米、麦、大豆を中心に18haで生産している。農地は加茂町にあり、中山間地域というより山間地域。地域の中では、農地の保全管理をどうするか議論になっており、牧草や稲WCSによる粗放的管理で農地保全ができないか、日々考えている。

有元：晴れの国岡山農業協同組合の勝央アグリセンターに勤務。勝英コントラクター組合の事務局を4年間務めた。自分の家では、和牛繁殖農家として稲WCSを利用している。

檜尾：おかやま酪農業協同組合の組合長。おからくとしては、稲WCSの事業に直接関わるのは難しい立場。耕種農家と畜産農家の橋渡しという部分で、なかなかお役に立てていないと感じている。おからくの中期の目標としてTMRセンター設立を考えており、それに向けて近隣のコントラクターの方をお願いして、稲WCSやトウモロコシ等を利用する段取りを考えており、その時はご協力をお願いしたい。

朝倉：県庁畜産課で自給飼料を担当。皆様の意見を聞かせてほしい。

岡田：県庁畜産課で今年から生産振興班長。平成20年から4年間、県庁で自給飼料を担当していた。その頃は今と同じように飼料価格が高騰した時で、高山さんや石原さん

と、稲WCSをしっかりと作ろうと話をしてしながら、津山コントラの収穫機導入や、アグリアシストの設立・収穫機導入に関わってきた。今日は、当時からの状況の変化を考えながら意見を伺いたい。

池見：今回は、コントラクター協議会会員のうち、県北の中山間地域で活動されているコントラクターに参加いただきました。

【岡山県の耕畜連携推進の取組】

池見：耕畜連携のための県の取組を説明いただきます。



朝倉：本県の稲作面積は、主食用米の作付面積が900ha増加した令和7年も含め減少が続いている。主食用米の増加により、飼料用米は74%減少した。

稲WCSは11%の減少で減少幅は小さく、耕畜の顔が見える関係性を築いた成果と考えられる。今後、主食用米面積の減少が見込まれる中、農地保全のため、耕畜連携による稲WCS等の飼料作物の推進が今まで以上に重要。県では、関係機関の役割を示した「耕畜連携フロー図」を、県の組織、JA、地域農業再生協等で共有し、各地域で耕畜のマッチング支援や顔合わせの場づくりに取り組んでいる。支援事例として、畜産農家が少ない総社で生産する稲WCSを新見の畜産農家が利用するため、それぞれの地域のJAや県民局、普及センターが参集し、毎年話し合いを行っている。直近の事例としては、畜産農家の経営中止により、稲WCSの販売先を探していた耕種農家と畜産農家のマッチングを行った。

【コントラクターが抱える課題】

池見：中山間地域では、耕畜連携による飼料生産が定着してきていますが、収穫を担

うコントラクターは機械更新、人材不足、農地分散といった課題を抱えています。この状況を教えて下さい。



高山：津山コントラの収穫機1号車は、日本で最初に導入された機械。転作が始まってから、耕畜連携により、転作を粗飼料生産にいか

かに利用するか、畜産が生き残るために粗飼料を近隣でいかに確保するかを考えてきた。輸入粗飼料価格の高騰により、全国的に稲WC Sの拡大が推進され、コントラクター組織が増加・拡大してきた。今の問題は、主食用米価格の上昇で、条件のいい農地で生産されてきた稲WC Sが減少していること、そして、中山間地域は後継者がいない高齢農家が多く、どんどん圃場が荒れていること。収穫は1ha以上の団地を条件としているが、農地が分散しコントラクターの作業性が悪くなっている。また、小さな圃場で大きな機械を使う難しい作業を行うが、通年業務がない。受託料金は上げていないが、本体価格や修繕費、燃料費が上がっている。そのような中、畜産農家に粗飼料を安定的に供給するため、昔からある組織は、機械の老朽化、オペレーターの人員確保を含め、コントラクターの活動をどう維持していくか考えなければならない。



石原：コントラクターの課題は、どこも機械の老朽化。機械が特殊なため、修理費が莫大。小さな修理でも何十万、大きな修理だと何百万も掛かる。

耐用年数の7年も持たず、5年でガタが来て、7年目になるとオーバーホールが必要。機械が壊れると次がない。機械が原因で将来的に継続が困難なコントラクターもある。

新しいコントラクター組織ができてくれれば非常にうれしいが、個人的な考えでは、コントラクター組織を県で一本化し、各地域に支部を置くのがいい。

池見：地域内の連携には何が必要でしょうか。

石原：稲作農家の経営面積は目一杯。高齢化で稲作経営者が減っていくと、集落営農等の団体への農地の割り当てが増えていくが、農地の拡大には限界がある。そうすると分業化が必要で、コントラクターは飼料作物の収穫を担っているが、今後は飼料作物を生産する組織が必要。

三上：今年、新見の稲WC Sの作付が8ha

減った。中山間地域であり1つの圃場が狭く、多くの圃場で作業しなければならない。昨年から津山で収穫をして感じたが、新見は稲が小さく収量が



少ない。新見も長茎品種が生産されており地域によっては大きくなるが、大きくなりません地域もあり、そのような地域は生産を止め主食用米に移行する。稲WC Sの生産は交付金だけでは賄えないから、コントラクターの作業料金を安くしてくれと言われることもある。他のコントラクターも同様だと思うが、資材代も上がっており受託料金を下げるのは難しい。石原さんと同じく機械の問題もあり、去年収穫機を導入しており稼働率を上げなければならないが、機械の調子がいいのは3年までと考えている。

【法人による農地保全】

池見：永禮さんと田邊さんは（一社）LAアライアンスを設立し、飼料生産や農地保全を行っています。取組内容や課題を教えてください。

永禮：LAアライアンスは農地集積して農



産物を生産する法人。中山間地域では農地を集積しなければ、全ての効率が上がらない。例えば、牧草と水稻を生産する農地が交互にある場合、水張り等で非常に効率が悪い。そこで、法人に農地を集約し、農地のゾーニング、作付の棲み分けをすることを目的に、違う作目が並んでいる圃場を牧草、稲WC S、主食用米等の農産物を考えながら集約化した。粗飼料生産については、私達畜産農家は安い方がいいが、経費が上がる中、耕種農家は安く販売すると継続できず、いずれは耕畜ともに立ち行かなくなる。どこに焦点を当てれば、お互いがお互いのために生産を継続して行けるか、まだ答えが出ていないが、常日頃、耕種農家との議論や研修で考えている。



田邊：先日、亡くなった人の圃場を3枚頼まれたが、1枚1反で入口が狭く、機械が入れなかった。まとまっていれば、広い入口も作れたのだが。LAアライアンスで農地集積することで、農地中間管理事業の集積協力金や基盤整備事業を活用しやすくなる。稲WC Sの交付金8万円が継続すればよいが、先行きが分からない。コスト削減のため、基盤整備事業に取り組まなければ生き残れないと思っている。私が住んでいる町内会は、LAアライアンスに農地を預ける予定で、20ha増える見込み。そこで基盤整備もできれば何でも生産でき、永禮牧場からの稲WC Sや牧草生産の依頼もすぐに対応できる。今後、中山間地域の農家数が減少し、農地の受け手側がスケールするためには、水田なら水田、牧草地なら牧草地としての基盤整備が不可欠。耕種農家は飼料を作っても売り先

がなければ成り立たない。畜産農家からの依頼をいただければ、経営に反映することができるので、耕畜のマッチングは必要。

永禮：事業を使って農地の集積や基盤整備を進めていかないと、中山間地域の農業はリスクが大きい。

高山：1反未満の圃場割合で生産性は大きく変わる。農地の基盤整備には、地元にはない地権者の圃場整備の負担金をどうするかの問題がある。また、負担金を払ってまで粗飼料や稲WC Sを生産するのか。中山間地域の団地化や圃場整備にもっと国による支援が必要。スイスのような農地保全により、機械が入れる圃場を作ってほしい。

田邊：地権者は負担金を支払うことに抵抗がある。地元負担のない農地中間管理機構の基盤整備事業があるが、土地利用型で粗放的管理ができる作物にも活用できるよう県からも後押しをお願いしたい。

【コントラクター活動の継続】

池見：コントラクターの組織体制や担い手について、県域としてどう取り組むべきでしょうか。



岡田：稲WC Sの取組開始以降、コントラクター間の収穫作業の調整や情報交換により、コントラクター間の連携強化を進めてきた。これにより、コントラクターが、津山から奈義に、新見から津山に応援に行ける体制を整備してきた。石原さんの提案のように、コントラクターを維持・継続するため、もっと大きな組織が必要ではないか。LAアライアンスのように生産自体を行ってはどうか。

石原：組織を大きくするだけでなく、通年作業を確保しないと成り立たない。収穫時期作業だけではオペレーターが確保でき

ない。小さな組織では農地の確保やオペレーターの確保に限界がある。大きな組織で通年作業を先に確保すれば、その後人員を確保できる。

高山：通年作業がないところに雇用はない。稲WCSにトウモロコシや牧草を加えても、収穫機の稼働は数ヶ月。2ヶ月で60万円ではオペレーターにはならない。何とかほかの仕事をやり繰りしながらオペレーターをしてきている。稲WCSの面積が減少するとオペレーターの確保もできない。国産粗飼料を利用している畜産業を守っていくことが必要。中山間地域では農地を集積し、用途に応じて団地化、基盤整備すれば、飼料生産や農地保全ができる。この座談会だけでなく、全国区で話ができる人はもっと発信しなければならない。

池見：奈義では農協がコントラクターの事務局をされていますが、どのようにオペレーターを確保していますか。

有元：勝英コントラクター組合では、農協から畜産農家に依頼してオペレーターをしてもらっている。6人に登録してもらっているが、牛を飼いながらの収穫作業なので、人員が足りないこともある。

池見：おかやま酪農業協同組合に事務局がある酪農ヘルパー組合にオペレーターとして協力いただくことはできないでしょうか。

檜尾：ヘルパーや牛検の検定員も人員が不足している。飼料作物は適期収穫しないと意味がなく、その時に手が空いているかの問題がある。また、朝夕の作業に加えて機械のオペレーターをすると、一日の労働時間が長くなり過ぎる。

田邊：どこも人材不足。耕種農家としても収穫時のコンバインだけをしてくれる人はいない。無理にでも仕事を作って年間雇用するしかない。LAアライアンスを設立し

た理由の一つは、人を雇用して育てないと継続できないという危機感。LAアライアンス内でグループを組んで事務員や作業員を雇用して、農繁期にオペレーターとしてメンバーに派遣している。

【農協による耕畜連携の取組】

池見：奈義では農協が耕畜連携の中心となっています。その取組内容や課題をお願いします。



有元：稲WCSを生産しているのは畜産農家と繋がり深い人が中心で、多少は米の価格が上がっても作ってくれている。60～70歳代を中心に頑

張っているが、10年後、農地と後継者をどうするかが課題。奈義町では稲WCSの生産者が減少しており、来年はさらに減少すると聞いている。稲WCSを確保できない畜産農家がいる中で、勝英コントラクター組合として新しい取組を始めた。汎用型飼料収穫機で5年ほど前から青刈りとうもろこし、今年から試験的にソルゴーを始めた。以前からある収穫機でも、稲WCS以外の何かできないか検討している。

石原：和牛用に麦WCSなら収穫できる。麦稈に栄養分がないから、乳牛には栄養が足りない。

永禮：LAアライアンスのメンバーの一人が、収量を増やすために、主食用米の裏作で粗飼料用の小麦を試している。播種は11月で収穫は4月前半。米は直播するので、麦が実ってからの収穫では間に合わない。裏作をイタリアンにすると早刈りで水分が多くなってしまう。生産物は畜産農家が引き受けてくれないと継続しないので、畜産農家と耕種農家のマッチングが課題。

田邊：エン麦でなく小麦なのは、ブラン

ド化している津山小麦を牛に繋げるため。津山和牛は津山小麦のふすまを飼料利用しているが、将来的に茎葉の飼料利用によりブランド化をさらに進めたいという思いがある。

高山：5年くらい前から稲WCSと麦の二毛作に取り組んでおり、二毛作は可能。麦の茎葉を収穫後、稲WCSの直播はできるが、難しいのは作業が連続すること。

池見：広島県では、酪農協がTMRセンターを運営しており、契約栽培した稲WCSを収穫し、TMRの原料として購入しています。参考にできないでしょうか。



檜尾：国の政策の変更により、水田活用の交付金が減少し、稲WCSの生産者が減ることが一番不安な部分。広島のTMRセンターでは原料の20～25%が稲WCS。TMRセンターは原料の購入価格が上がると割に合わない。コスト削減は農地集積が一番現実的で、総合農協を含めて考えなければいけない。TMRセンターができれば、生産物はおからくが引き受けるので、コントラクターは収穫作業に集中できる。また、TMRセンターの設立は早くて3年後と考えているが、その間に酪農家が減ると意味がなくなる。本年度は5戸が離農したが、これから3月までは離農がない。今までで離農が最も少なく、離農は止まりつつあると思っているが、酪農家が減少すると集乳車の運営も厳しくなる。おからくとしては、いかに酪農経営を存続させるか、第3者継承を含めて酪農家が上手に生き残る方法を考えないといけない。

【耕畜のマッチング】

池見：耕畜連携には生産・利用のマッチン

グが重要ですが、推進するために何が必要でしょうか。

石原：農家の耕畜連携と併せて、推進する関係機関内、関係機関間においても耕畜が連携し、マッチング支援の窓口を一本化してほしい。

池見：マッチングが機能している地域もありますが、その要因は何でしょうか。

三上：新見のマッチングはJA主体で上手くいっている。新見市では、JAが耕種農家、コントラクター、畜産農家の窓口となっている。また、JA等で構成する技術者連絡協議会で、情報共有や防除指導、収穫日の調整を行っている。

有元：奈義町では、JAが勝英コントラクター組合の事務局として、新見市と同様に窓口となっており、マッチングや収穫作業スケジュールの調整を行っている。

池見：畜産農家が減少する中、畜産農家がいらない地域や集落もあり、広域でのマッチングの調整も必要ではないでしょうか。

岡田：マッチングの基本は地域単位で、地域内で堆肥を含めた資源循環を確立することが基本。マッチング体制が整っていない地域は県民局の畜産班が中心となり個別対応する。広域では運賃も掛かるので、まずは地域内でのマッチング。

藤原：地域内は基本だが、地域のマッチングのみで進めていくといずれは萎んでしまう。大きなフレームは必要。

岡田：マッチングが必要なときは、原点に立ち返って「耕畜連携推進フロー図」を回していく。逆に耕種農家が少ない地域もあり、地域を超えたマッチングが必要な時は県民局間で連絡を取り合う。

檜尾：マッチングには、地区のJAの担当とおからくの地域事務所長も集まって、情報共有しないとイケない。

【耕畜連携の継続】

池見：今年は主食用米価格が上昇しましたが、米価が変動するなかで耕畜連携を継続するために何が必要でしょうか。

田邊：私達が大事にしているのは、「顔の見える耕畜連携」。どこの誰か分からない関係だと、すぐに切れてしまう。自分が作った稲WCSを永禮牧場の牛がたくさん食べているのを見るとうれしい。必要とされているものを作りたい。今年も永禮さんが利用する稲WCSを継続して生産した。

石原：顔の見える耕畜連携の大切さはそのとおり。酪農経営で稲WCSを利用しているが、本年も継続して耕種農家が生産してくれている。

田邊：持続的な耕畜連携には、採算の取れる生産技術と基盤整備が必要。国産飼料を使った畜産物や堆肥を使った農産物の価格を高められるフレーム、そのためのサプライチェーンとの連携が必要。乳業メーカーと連携して、小さな取組からでもブランド化等を考えていきたい。

有元：奈義町の肥育農家は、県内産稲WCSを利用しているホル牛肉でコープと取引がある。

池見：輸入飼料価格の変動があっても、畜産農家が国産飼料を継続して利用するためには何が必要でしょうか。

永禮：輸入粗飼料価格は乱高下してきたが、過去にない値上がり。田邊さんと同じで、今、耕種農家に飼料作をお願いして、輸入粗飼料が安くなったら止めるのか、それでは関係性を維持できない。耕畜連携にはお互いの信頼関係が必要。

【おわりに】

池見：耕畜連携による飼料生産と農地保全の取組や課題について、それぞれの立場か

ら様々なご意見をいただきました。キーワードだけでも、コントラクター組織の一本化、マッチング支援体制、農地の集約・団地化、基盤整備、新たな飼料作物、TMRセンターの設立、飼料作物によるブランド化、顔の見える耕畜連携等、多岐にわたります。これらは耕畜連携やマッチングを推進する誰かではなく、農業に関わる全ての人が考えなければいけません。そして、これらについて、耕種農家や畜産農家、コントラクターの皆様、耕畜の関係機関と継続して検討していく必要性を感じています。

【閉会挨拶】

岡田：今日話を聞いて感じたことは、1つ目に、中山間地域の農地保全には、農地集積、団地化が必要であること。近年稲WCSの団地化の取組が薄れてきているが、コントラクターの収穫作業の効率化の問題もあるので、もう一度呼びかけていく必要がある。2つ目に、コントラクターの維持については、機械の効率的な稼働や人材確保、新たな作物の導入等、それぞれの組織が工夫されていること。3つ目として再生産可能な価格設定の必要性。マッチングを進める上でも、耕種農家・畜産農家双方に理解してもらった上で、飼料作物の価格やコントラクターの料金を考えていく必要がある。4つ目にマッチングについては、顔の見える耕畜連携が大切との話がでたが、推進の方向性は間違っていないと感じた。県民局を中心にもっと意見交換をしながらマッチングを進めていく。5つ目にTMRセンターを核としたコントラクターの飼料生産という提案もあったが、皆様と一緒に体制を考えていきたい。今日いただいた意見は施策に反映する等活かしていきたい。

〔家畜衛生〕

家畜伝染病対策について

岡山県農林水産部畜産課

高病原性鳥インフルエンザや豚熱など家畜伝染病の発生が続いており、都道府県には平時からの家畜の飼養者に対する飼養衛生管理に係る指導と発生予防対策、発生時の迅速なまん延防止措置が求められています。

今回、これら家畜伝染病の発生状況と、本県の取組について紹介します。

1 高病原性鳥インフルエンザ

(1) 国内における農場での発生状況

今シーズンは12月10日時点で既に6事例の発生が確認されています。

発生6事例のうち4事例は再発の事例であり、過去に発生があった農場及びその周辺農場については、他の地域と比較して発生リスクが高いと考えられます。

また令和7年1月には農場が密集する地域において本病が連続発したことから、こうした地域では発生リスクが高いことを踏まえた対策が重要です。

(2) 本県の取組等

農林水産省は高病原性鳥インフルエンザ対策パッケージを令和7年4月に公表し、飼養衛生管理のさらなる強化を求めています。本県においても専門家による研修会を開催し、同パッケージの内容や鶏舎内へのウイルス侵入防止を目的としたハエ対策や塵埃対策（エアフィルターの設置）について、より一層の対策の周知徹底を図っています（図1）。

また、実効性のある埋却地の確保に向け、今年度は20万羽以上飼養する4農場の埋却

候補地の試掘を行い、発生時に円滑に埋却作業が実施できるよう備えています（図2）。



（図1）研修会の様子



（図2）農場での試掘の様子

さらに、令和4年の県内での連続発生を受け、殺処分等の防疫業務をより効率的に行い、速やかに防疫措置を終了するよう検討を行っています。

本県では、茨城県が導入した捕鳥ラックとコンテナハウスを用いた効率的な殺処分方法を参考に、コンテナハウスに代わる軽量で運搬しやすく、省スペースで殺処分できる捕鳥ラックカバーを作成し、防疫演習により殺処分方法の検証を行いました（図3）。今後、実用化に向けて検討を重ねることとしています。



(図3) 防疫演習の様子

2 豚熱

(1) 国内における農場での発生状況

国内において、平成30年9月に岐阜県で26年ぶりに発生して以降、農場で100事例(R 7. 10. 6 現在)発生し、約43.5万頭殺処分されています。

(2) 本県の実施等

令和3年度から県内の全ての飼養豚に豚熱ワクチンの接種を行っています。

また、野生イノシシの豚熱感染が確認された場合、速やかに全ての豚飼養農場に情報を提供し、注意喚起するとともに、異常豚等の早期発見・早期通報、野生動物の侵入防止など飼養衛生管理基準遵守の徹底指導を継続しています。

発生時に備えた対策として、埋却作業が円滑に実施できるよう、豚飼養農場においても、埋却候補地の試掘を行っています(9 農場実施済み)。

また、豚熱は季節を問わず発生することから、防疫作業員の暑熱対策方針を定め、夏期の防疫措置における作業時間の見直しや熱中症対策用資機材の備蓄を行い、安全に作業できるよう備えています(図4)。



(図4) 暑熱対策用冷風扇

(3) 県内の野生イノシシ感染状況及び対策

令和6年2月に、県内で初めて野生イノシシの豚熱感染が確認されて以降、これまでに67頭確認されています(R 7. 12現在)。

豚熱感染が確認された野生イノシシの発見・捕獲地点から半径10km圏内は、野生イノシシ豚熱感染確認区域となり、この区域内のイノシシの区域外への持ち出しやジビエ利用については、自粛をお願いしています。

また、野生イノシシに免疫を獲得させ、発症を抑えることで豚熱のまん延を防止するため、市町村や県猟友会の協力のもと、経口ワクチンを散布しています。

3 アフリカ豚熱

(1) 発生状況

国内での発生はありませんが、近隣諸国での発生が確認されており、昨年10月には、これまで発生がなかった台湾で発生しました。

(2) 本県の実施等

台湾での発生を受け、速やかに全ての豚飼養農場へ情報提供し、チラシやホームページによる注意喚起を行っています(図5)。



(図5) 啓発チラシ

4 おわりに

海外からの観光客が増加し、家畜伝染病が国内に侵入するリスクも高くなっています。今後は、これまで国内では発生していないアフリカ豚熱など、近隣諸国で発生している家畜伝染病にも備えた防疫体制を整備していきたいと考えておりますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い致します。

牛の発情発見のポイント

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 繁殖衛生研究グループ

繁殖成績は、和牛繁殖農家の経営を大きく左右する要因の一つです。経営の収益性を向上させるためには、分娩間隔を短縮する必要がありますが、最も基本となるのが、まず発情を発見し、適期に授精することです。

そこで今回、発情発見の基礎を見直し、一例として当所で実施している発情発見方法とともに紹介したいと思います。

まず、牛の発情兆候は、表1に示す通りですが、スタンディング・マウンティング（写真1）・咆哮・食欲低下・落ち着きがなくなる等の行動の変化が見られます。

表1 主な発情兆候

性行動
スタンディング（乗駕の許容） マウンティング（乗駕） 咆哮 落ち着き無く動き回る 食欲低下
外陰部
外陰部の腫脹 粘液の流出



写真1 スタンディングとマウンティング

また、外陰部の腫脹や粘液の流出（写真2）も認められます。



写真2 粘液の流出

しかしながら、表2のように、牛が発情行動を示す時間帯は、午前6時から夕方の日中の割合が低く、行動時間もまちまちであるため、観察だけで発情を発見するためには1日4回以上発情観察を行わなければならないと言われています。

表2 発情行動を示す時間帯

時間帯	行動を示す牛
午前6時～正午	22%
正午～午後6時	10%
午後6時～深夜	25%
深夜～午前6時	43%

発情牛の中でそれぞれの時間帯で発情行動を示した牛の割合 家畜人工授精講習会テキストから引用

しかし、24時間発情を観察することは難しいことから、牛の発情行動の変化を発見するための便利なツールがあります。例えば、発情時の乗駕行動を検知するヒートマ

ウントディテクターやテールペイント、発情発見シール等が販売されており、農場の牛舎構造や飼養形態によって使い分けることができます。

当研究所では、和牛繁殖雌牛を約150頭飼養していますが、種付けは主に40頭規模のフリーバーン牛舎で行っています。その牛舎では、発情発見補助器具として発情発見シールを利用しています（写真3）。



写真3 発情発見シールと使用例

これを牛の尾根部に貼付すると、スタンディング時に表面が削れてシールが赤色になるので、発情した個体を簡単に見つけることができます。種付け予定の雌牛に貼付し、飼養者が毎日、朝と夕方2回シールの色の変化を観察し、シールの全てが削れて、赤色に変化した個体を種付け候補牛としてリストアップします。種付け担当者は、報告のあった個体について直腸検査等により発情確認を行い、発情の有無を判断します。診断の結果、発情ならば人工授精又は1週間後に受精卵移植を実施します。

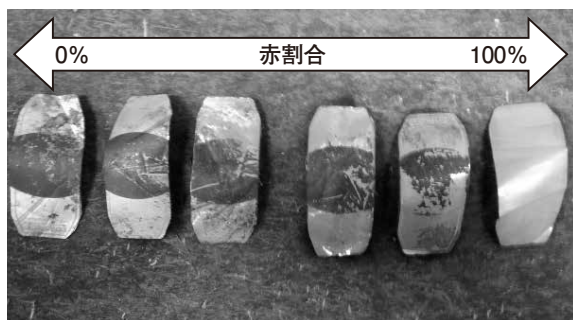


写真4 シールの色の変化（右全体赤）

シールを観察するときの注意点として、乗られすぎてシールごと剥がれてしまう個体もあるので、床面に赤いシールが落ちているときはシールのない個体を注意深く観察する必要があります。シールの色の変化は全体が赤いものから一部が赤いものまで様々です（写真4）が、発情した個体ではシール全体が完全に赤くなる傾向が強いことから、当所ではシール全体が赤くなった場合のみを種付け候補牛としています。

種付けを行った牛は、妊娠鑑定を種付け後30日と60日に実施し、60日目のエコー所見で胎子がみられた場合に妊娠確定としてシールをはがします。

長期間シールの色が変化しない個体に対しては検診を実施して卵巣が周期を営んでいるか確認し、必要に応じて治療を実施しています。

令和6年度の当研究所における和牛の受胎率は46.5%（受胎99頭／授精213頭）でした。受胎した99頭のうち75頭（76%）はシールにより発情を発見しており、当所では非常に有用な発情発見ツールとして利用しています。

また、このシールは発情発見をすることにより、牛群の飼養管理がうまくいっているか判断することもでき、夏期や飼料の変更時等で体調不良となると発情行動も弱まるため、給与飼料が適正なのか、暑熱や感染症の影響なのか等も観察できるものと思われます。

自分の農場にあった発情発見ツールを利用して、分娩間隔短縮による収益性向上を目指しましょう。

岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課の 近況をご紹介します

岡山家畜保健衛生所

1 業務概要

岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課は、所長のもと6名体制で業務を遂行しています。県内で発生した家畜疾病について病理、細菌、ウイルス、生化学部門の職員が各々の知識と経験を生かして診断を行っています。また、家畜疾病についての調査研究や、県全体の病性鑑定技術の向上を目指した家保職員向けの技術研修も行っています。

2 重要疾病への対応

- (1) 高病原性鳥インフルエンザ：岡山県では、令和4年度は県内養鶏場で4件発生しましたが、5年度は野鳥からウイルスが検出されたものの6年度まで農場発生はなく、穏やかなシーズンでした。しかし今年度はすでに家きんでの国内発生が確認され、加えて全国的に野鳥で続々と高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されており、差し迫った状況となっています。当課では今年度の机上および検査室での職員の動きのシミュレーション、検査精度の管理を終え、万全の検査体制をとっています。この体制を稼働しなくて済むように願ってやみません。
- (2) 豚熱：平成30年、豚熱が26年ぶりに国内養豚農場で発生して以来、全国で発生が継続していますが、本県の飼養豚では発生していません。しかし、野生いのししサーベイランスでは令和6年2月から令和7年11月18日現在までに64頭の野生いのししから豚熱ウイルスが検出されています。つまり、本県ではいつ豚飼養農場に豚熱ウイルスが侵入してもおかしくない状況になっています。

ます。当課では飼養豚を対象とした豚熱抗体検査の実施を通して抗体の保有状況を確認したり、豚熱ワクチン接種適期の調査をしたりしています。

- (3) アフリカ豚熱：令和7年10月末に台湾でも初めて感染が確認されました。東アジアで発生がないのは日本のみになってしまい、楽観視できない状況です。侵入に備え、迅速な病性鑑定体制の整備を継続します。

3 研究成果

当課では病性鑑定業務と並び、調査研究も重要な業務です。今回は豚熱抗体検査法についての調査研究結果をご紹介します。

「豚熱抗体検査法の比較と活用方法の検討」

岡山県では令和3年4月から県内全養豚場において豚熱ワクチン接種を開始しました。それに伴い豚群のワクチン抗体保有状況の確認及び肥育豚のワクチン接種適期の検討のため、免疫付与状況等確認検査（抗体検査）を実施しています。検査にはA社製ELISAキットを用い、抗体陽性率8割以上の確認並びにワクチン接種適期推定のため中和試験を実施しています。しかし中和試験はELISAと比較して感度（抗体を有している検体を正しく陽性と判定できる割合）・特異度（抗体を有さない検体を正しく陰性と判定できる割合）は優れているものの、判定までに時間がかかることから、A社製ELISAおよび令和6年11月に新たに販売されたB社製ELISAの結果を中和試験結果（以下抗体価）と比較し、活用方法を検討しました。

- (1) B社製ELISAの反応時間が2時間または12時間～18時間（オーバーナイト、

O/N) の2種類あるため、それぞれを抗体価と比較検討しました。その結果(表1)、感度は2時間反応では87.1% (149/171) に対し、O/N反応では98.8% (169/171) と高く、両者に有意差が認められました。特異度は、2時間反応では、18.5% (5/27) に対し、O/N反応では71.4% (5/7) と高く、両者に有意差が認められました。感度及び特異度ともにO/N反応が良好であったため以降の検討はO/N反応で行いました。

表1 抗体価及びB社ELISA検査結果

2時間		抗体価	
		陽性	陰性
ELISA結果	陽性	143	0
	疑陽性	6	0
	陰性	22	5
	合計	171	5

O/N反応		抗体価	
		陽性	陰性
ELISA結果	陽性	168	0
	疑陽性	1	0
	陰性	2	5
	合計	171	5

- (2) 抗体価とA社製ELISAおよびB社製ELISAを比較しました。その結果(表2)、感度は、A社は92.6% (212/229) に対しB社では97.8% (224/229) で、両者に有意差は認められませんでした。特異度は、A社は57.5% (23/40) に対し、B社は79.2% (19/24) で、両者に有意差が認められました。感度はA社B社ともに高かったものの、特異度はB社の方が高いことが分かりました。

表2 抗体価及びA、B社のELISA結果

A		抗体価	
		陽性	陰性
ELISA結果	陽性	182	0
	疑陽性	30	0
	陰性	17	23
	合計	229	23

B		抗体価	
		陽性	陰性
ELISA結果	陽性	222	0
	疑陽性	2	4
	陰性	5	19
	合計	229	23

- (3) 抗体価とA社及びB社のELISA結果の相関を調べました(図1)。決定係数は、A社は0.835、B社は0.558となり、回帰の有意性検定ではP値はいずれも0.05以下と有意であり、定量性についてはA社製ELISAの方が良好であることが分かりました。

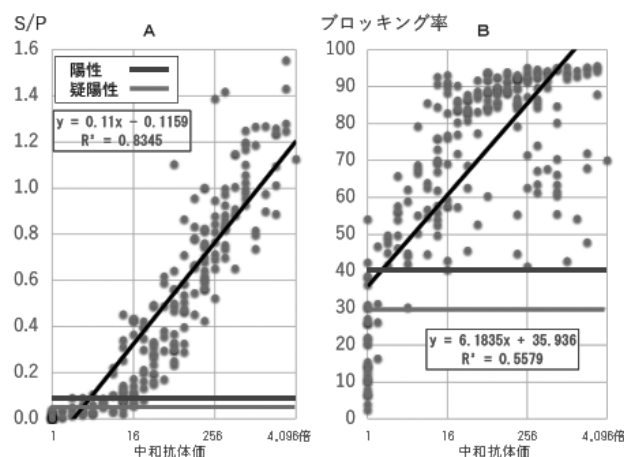


図1 抗体価とELISA結果の相関

(4) 考察

2種類のELISAの選択については、抗体陽性率を適切に把握することが重要な免疫付与状況等確認検査は、感度、特異度ともに高く中和試験の結果に近いB社製ELISAを、抗体価を把握する必要があるワクチン接種適期の指導には抗体価と相関が高いA社製ELISAがより適していると推察されました。B社については、疑陽性6検体中4検体が抗体価陰性であり、運用に際し注意が必要であると示唆され、運用方法の検証のためにもデータを蓄積していく必要があることが分かりました。

4 最後に

今年は春先から秋まで多種多様な病性鑑定が続き、原因究明に大忙しとなりました。また日頃から身近に迫る重要疾病の脅威に晒されていますが、気力体力落とすことなく、早期・迅速診断による蔓延防止に取り組んでいく所存です。

〔共済フレッシュさん〕

転職からもうすぐ一年を迎えて

備中家畜診療所備北出張所 安藤 明日香

こんにちは。4月から備中家畜診療所備北出張所で勤務しております、安藤明日香と申します。今回はこの場をお借りして、自己紹介をさせていただきます。

出身は和歌山県和歌山市、大阪まで1時間の微妙な場所です。和歌山といえば南のほうにアドベンチャーワールドという動物園があってパンダがたくさんいたのですが、6月にみんな中国へ返還されてしまいとても寂しいです。それでも今はペンギンの赤ちゃんが生まれ、また盛り上がっているようで勝手に安心しています（YouTubeで毎日ライブ配信しているのでぜひご覧ください）。

和歌山での花の女子高生時代は登山部で、20kgのリュックを背負い階段を往復する、あまりイケてないけど楽しい日々でした。このときの背負い方が悪くて今でも腰痛持ちなのだけは後悔しています。方向音痴のため地図読みを後輩に任せる最悪な先輩でしたが、競技人口が少なすぎたおかげで3チーム中2位というなんともいえぬ成績で近畿大会に進出したこともありました。これに味をしめてか？今でも山登りは続けています。

そのあと大学進学のため鳥取へ移り、そのまま鳥取の共済組合で3年間勤務していました。はじめ鳥取行きが決定したとき、大変失礼ながら、砂だらけの何にもないところだったらどうしようと思っていました。すぐ母が「るるぶ」を買ってきてくれ、「イオンモールがあるで！」と励ましてくれました。結局鳥取には9年間住みました

が、とてもいいところでした。岡山での生活もうすぐ1年になりますが、こちらもちらで、晴れの日が多い気がするし、イオンモールも大きいし、とてもいいところですよ。これから、カブトガニ博物館など気になっている場所をどんどん開拓していきたいです。

獣医師を目指したのは、高校生のときにNHKで紹介された大動物獣医師の姿がカッコよかったのがきっかけです。それまでは獣医さんといえば小動物のイメージで、こんな職業があるのかと衝撃でした。実際自分に適性があったかは置いておいて…牛には癒されるし、畜産業にも関わっている、楽しくやりがいのある仕事だと思っています。NHKに感謝です。

まだまだ未熟な私を温かく迎え、様々なことを教えてくださる農家の方々にも、いつも感謝しております。少しでもお役に立てるよう精進していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



義実家の猫×3匹です。
表情豊かでたいへん愛くるしいです。

〔畜産現場の声〕

内田畜産5年目の挑戦 ～北海道全共を目指して～

津山市 つやま和牛牧場 内田畜産 内田 健治

私は建設業を営みながら、和牛繁殖経営を兼業でしています。小さいころから祖父が和牛2頭を飼っている家で育ちました。いつかは自分で牛飼いをするのが夢で、15年前に畜産協会主催の和牛入門講座を受講しました。その後、空き牛舎バンクに登録していましたが、4年前、46歳の時に畜産協会の紹介で今の牛舎を借りることになり、妊娠繁殖母牛2頭を導入して新規就農しました。

牛舎は小高い山の頂上にあり、もともと水道もなく、当初は家からタンクに水を汲んで運んでいました。徐々に頭数も増えてきて、水が運搬だけでは間に合わなくなったので、近くの市管理の貯水タンク（山の頂上なので麓の水源地があった）から水道を引いたり、また草地を単管で囲い放牧場を整備したりしました。休日には家族みんなで牛舎に行き、妻は牛舎横の畑で菜園をしたり、孫たちは自然の中で走り回って遊び、夏にはプールをしたり流しそうめんを食べたりして、アウトドア感覚で牛飼いライフを満喫しています。夜間にお産があれば、感動的な子牛の誕生を孫たちにも見てもらい、自分の小さい時と同じ経験をしてもらえるのも嬉しく思います。

牛飼いを始める前にも時間の都合がつけば子牛市場を見に行ったり、共進会を見に行ったりしており、その中で自分が育てた牛で共進会に出場したいと思うようになりました。牛の導入2年目から共進会にも出品させていただき、毎年県共出場も果たしています。上位入賞はなかなか難しいですが、牛の選定、育成の目を養って、いつかはグランドチャンピオンを受賞できるように頑張っていきたいです。

兼業農家のため基本朝晩しか牛舎に行けません、便利よくまた作業効率をよくするためにMOWCAMカメラを牛舎内部と外部に各一台設置しています。また牛温恵も購入して、事故がないよう機器を整備しています。これからも機械など順次導入して歳をとっても牛飼いを続けられるように整えていこうと思っています。地域の先輩方に牛飼いは日々勉強、お産はその都度が初めてということなども教えてもらいながら、協力、指導をいただいています。

来年2027年の北海道全共初出品を目指してこれからも日々牛飼いを楽しみながら頑張っていけたらと思います。



牛舎全景



共進会

〔生乳検査 NOW〕

生乳検査NOW：令和7年度上期

一般社団法人 岡山県畜産協会生乳検査センター

一昨年からの飼料費・資材費の高止まりによる酪農環境は厳しい状況が続いている中ではありますが、乳価の引き上げもあり明るい兆しもあります。

このような情勢の中で本年度上期を終えた今、現況の乳量や生乳検査成績を通して乳質を紹介します。

1. 生乳生産量（生乳検査対象乳量）

図1は、令和5～令和7年度上期までの岡山県の生乳生産量の推移です。今上期生産量は45,401トンで、対前年同期比100.2%と昨年より若干増加となっています。

4月から9月の半期で、前年より僅かながら減少していたのが6月及び7月のみでした。例年ですと8月から9月に渡り大幅な乳量減少がみられていましたが、前年より乳量が増加しておりました。

中国地区5県の生産量は対前年比99.6%でした。広島県が前年より減少したもののその他の各県については前年比100%以上を維持していました。

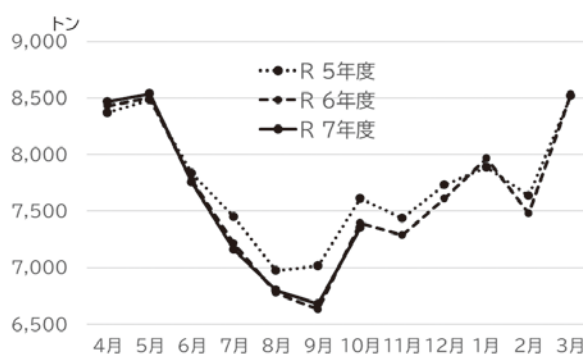


図1 生乳生産量の推移（岡山県）

2. 乳成分

（1）乳脂肪率の推移

図2、図3は、ホルスタイン種及びジャージー種の令和5年度から令和7年度の、乳脂肪率の推移です。ホルスタイン種は、上期は昨年度よりやや高く、ジャージー種は4月から6月及び8月はやや低く7月及び9月は前年より若干高く推移しました。

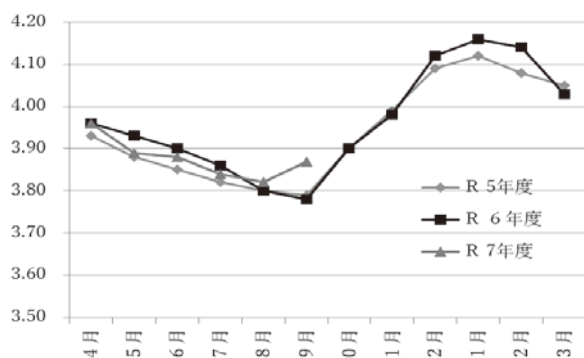


図2 ホルスタイン種乳脂肪分の推移

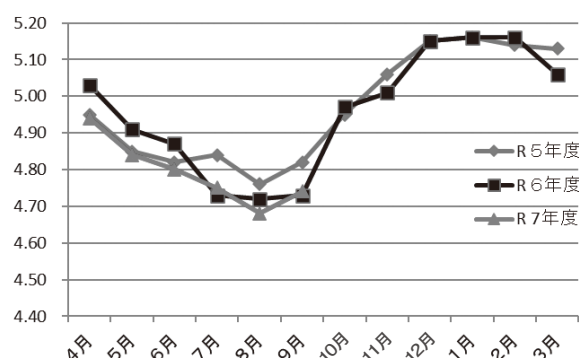


図3 ジャージー種乳脂肪分の推移

（2）無脂固形分率の推移

図4、図5は、ホルスタイン種及びジャージー種の無脂乳固形分率の推移です。ホルスタイン種は、4月～9月までの半期は昨年度より高めで推移しました。ジャージー種も4月～9月の上半期は昨年度より高い値で推移しておりました。

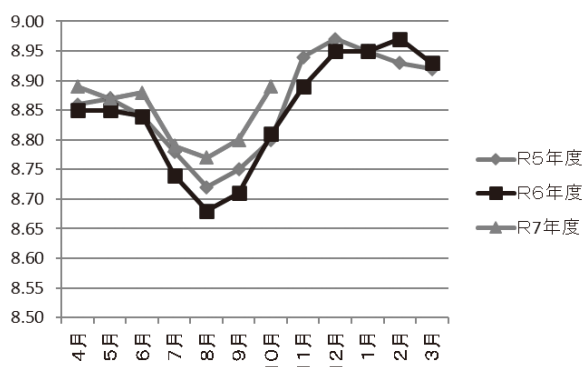


図4 ホルスタイン種無脂乳固形分の推移

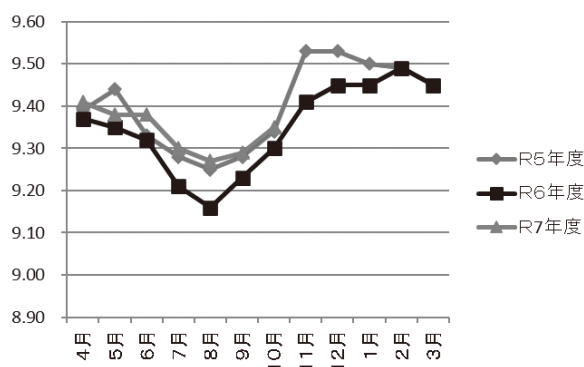


図5 ジャージー種無脂乳固形分の推移

3. 体細胞数

図6は、本年度上期の中国地区各県の体細胞数30万未満/mlの適合率を、各月別にみたものです。

鳥取県は、適合率が98.4%～86.4%で推移しているのに対し、岡山県は82.4%～60.8%と鳥取県と比較して約16%から25.6%低く推移しています。また、本年の上半期は昨年より適合率が上がっています。

図7は、本年度上期の体細胞数適合率を、岡山県の地区別にみたものです。令和7年度上期の平均で見ると70%以上であったのは真庭地区、東部地区、びほく地区、備南地区となり、西大寺地区、津山地区は70%以下の適合率となっていました。

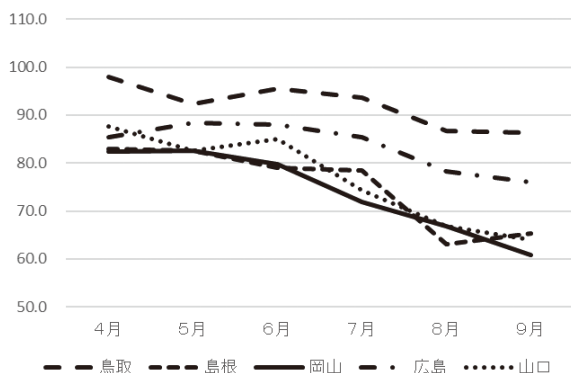


図6 県別体細胞数適合率 (R7年度上期)

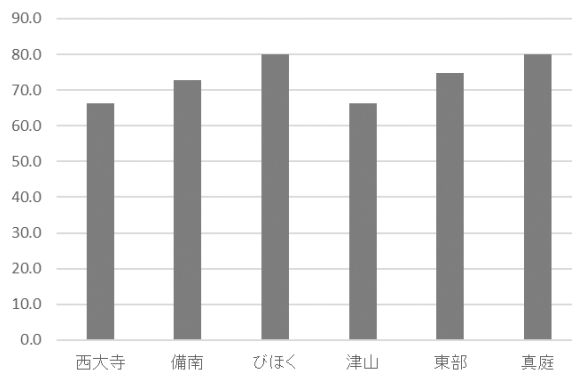


図7 地区別体細胞数適合率 (R7年度上期)

4. 細菌数

図8は、岡山県の地区別の細菌数10万未満/mlの適合率を、地区別にR6年及びR7年を対比した表です。R7年95%以上であったのはびほく、津山、東部、真庭地区に対して、西大寺地区91.6%、備南地区92.8%と若干低い適合率となりました。全地区でR6年よりも若干適合率が下がりました。

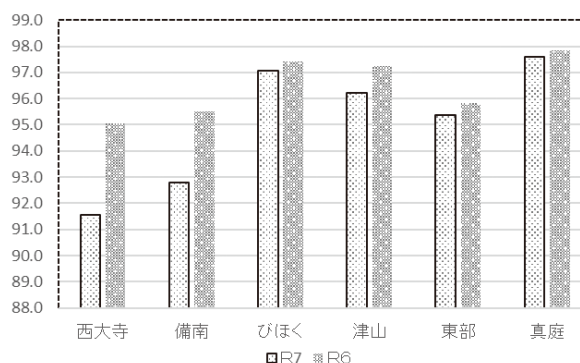


図8 地区別細菌数適合率比較表 (R7、R6上期比較)



食卓からの、 ありがとう。

私たちがおいしい牛乳やお肉、

卵を食べられるのは、

畜産に携わるすべての人のおかげです。

さまざまな人の努力や思いがあるからこそ、

今日の食卓が豊かになっている。

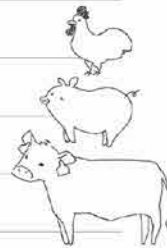
そのことを、私たちは知っています。

おいしい国産の畜産物が、

この先も続いていくように。

豊かな畜産の未来に向かって、

できることを続けます。



国産の牛乳、お肉、卵を 食べてまもう。



地方競馬と全国の畜産会組織は
日本の畜産を応援しています。
地方競馬の売上の一部は、地域のくらしや畜産の振興に
役立てられています。

<https://jlia.lin.gr.jp/tekiseikakaku/>

公営社団法人

中央畜産会

JAPAN LIVESTOCK
INDUSTRY ASSOCIATION



一般社団法人

岡山県畜産協会



謹 賀 新 年

公益社団法人 **岡山県獣医師会**

会長 中村 金一
役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103
TEL (086)243-1879 FAX (086)241-8543 <http://www.oka-vet.or.jp/>

謹 賀 新 年

岡山県農業信用基金協会

農家のための優良保証機関 会長理事 三宅 雅之

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9番18の401号(岡山県農業会館)
TEL(086)222-3218 FAX(086)226-3443

謹 賀 新 年

畜産経営の安定に寄与する
(一社)岡山県配合飼料価格安定基金協会

理事長 坂本 修三
役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103
TEL(086)241-4733 FAX(086)241-4722

謹 賀 新 年

岡山県家畜人工授精師協会

当協会は家畜改良増殖の促進と家畜人工授精技術の向上を通じて、
岡山県の畜産振興に尽力します。

会長 狩谷 和宏
役員一同

謹 賀 新 年

畜産機械器具、資材取扱

西日本興農株式会社

代表取締役 柿 本 平 三

〒708-0841 津山市川崎86-1

TEL 0868-26-1180 FAX 0868-26-6836

謹 賀 新 年

岡山県養鶏協会

会長 安 原 健 二

役員 一 同

謹 賀 新 年

岡山県孵卵協会

会長 山 上 祐一郎

謹 賀 新 年



オールインワンが自信を持ってお届けします



★ついに登場!
乾乳から分焼へ
**移行期
サプリメント**



★日本初!



**BOVINE
CRYPTO-EP**
100ml×10本入り



**牛用飼育用混合飼料
ボバインクリプト-EP**



乳牛・肉牛飼料の専門メーカー

株式会社 オールインワン

ご用命は

中国支店: 〒710-0826 岡山県倉敷市老松町1丁目2-40-101
TEL (086) 427-6300 FAX (086) 427-6011
E-mail: y-suwa@all-in-one.co.jp

謹 賀 新 年

本物の味わい……新鮮な岡山の畜産物。

地方競馬益金は畜産振興を支援しています。

岡山県馬事畜産振興協議会

謹 賀 新 年

岡山県養豚振興協会

会長 梶田 謙二

事務局 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館
(一社)岡山県畜産協会内 (086)234-5981

謹 賀 新 年



おかやま酪農業協同組合

代表理事組合長 檜尾 康知

〒708-0841 津山市川崎94-1
TEL(0868)26-1101 FAX(0868)26-6763



謹 賀 新 年



蒜山酪農農業協同組合

代表理事組合長 長恒 充

〒717-0501 岡山県真庭市蒜山中福田958
TEL : 0867-66-3645 FAX : 0867-66-3647
E-mail : hiruzenjersey-info@hiruraku.com



謹賀新年

性別が選べる時代だからこそ
黒毛和種性選別精液を選んでみませんか？



藤良系 P黒1184 - つるひめしげ -
鶴姫重 Y
福之鶴×福之姫×美津照重



藤良系 P黒1162 - せんじゅけん -
千寿剣 Y
福之姫×美津照重×忠富士



気高系 P黒1232 - ちゅうた1 -
忠太1 Y
安亀忠×美津百合×安茂勝

Y 精液

- ・市場価値の高い雄子牛を生産したい
- ・後継牛を取らない母牛からは積極的に雄子牛を生産したい



P黒1045 - ちえひさ -
知恵久 Y X

X 精液

- ・雌肥育向けの子牛を生産したい
- ・高能力雌牛から後継牛を効率よく確保したい
- ・未経産の雌牛には難産のリスクを避けるために雌を生ませたい



岡山種雄牛センター TEL: 0868-57-2475

(公社) 中央畜産会からのお知らせ

謹賀新年

畜産映像情報

がんばる! 畜産! 9

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!

映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!

配信中の内容: ヨーロッパアルプ酪農の力とチーズ街道 オーストリア・ブレゲンツァーヴァルト / 日本畜産学会100周年 第132回大会総集編 / 国際養鶏養豚総合展2024 総集編 ほか



◀スマートフォンからはこちら
▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産



お問合せ: (公社) 中央畜産会 経営支援部 (情報) TEL03-6206-0846

謹 賀 新 年

 JA全農くみあい飼料株式会社

「食」の安心は、安全な飼料から

○中国支店 営業部
岡山県岡山市北区磨屋町9-18
TEL 086 (234) 6895
FAX 086 (212) 3786
○久世粗飼料基地
岡山県真庭市草加部1810-5
TEL 0867 (42) 4061
FAX 0867 (42) 4062

たまごとともに歩み続けた65年

創業65年、わたしたち共和機械は
創業時の「優れた技術と優れた製品で社会に奉仕する」
との理念を継承し、さらなる独自技術の創生と、
お客様にご満足いただける製品づくりに邁進いたします。

謹 賀 新 年

Kyowa

CREATE THE PERFORMANCE

鶏卵の洗浄機、選別包装システム、割卵システムのパイオニア

共和機械株式会社 TEL 0868-26-6600

〒708-1115 岡山県津山市河面375

www.kyowa-machinery.co.jp

謹 賀 新 年



動物の健康は 人の健康につながる

- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

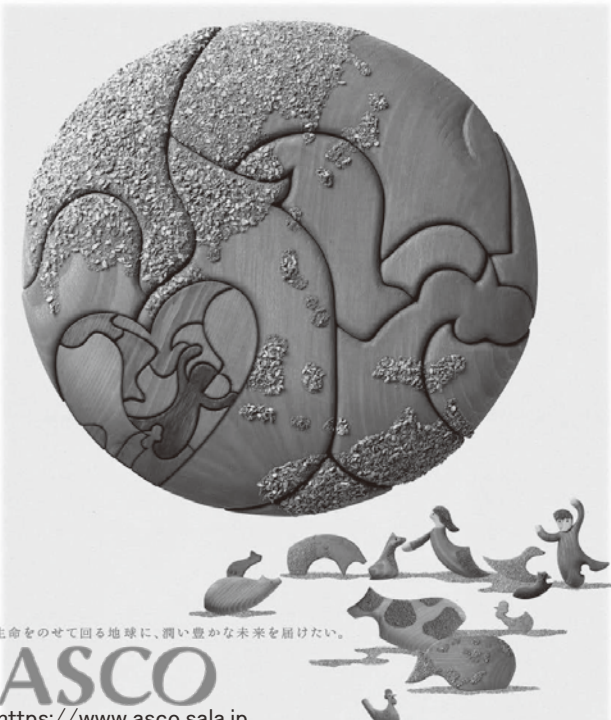
本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター



謹 賀 新 年

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



本 社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都

謹 賀 新 年

動物用 カルシウム剤 ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



おいしいよ〜♪



JYUCHIKU Co. Ltd. 株式会社ジュウチク

〒701-0145 岡山県岡山市今保 154-7

Tel.086-295-9230 Fax.086-295-9240

Email : jyuchiku-info@po.oninet.ne.jp

謹 賀 新 年

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー
品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア

フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryo.co.jp

謹 賀 新 年

FOSS

乳・乳製品・飼料分析ソリューション



【BacSomatic™】

乳中の体細胞数・細菌数を同時に短時間で測定可能！

乳房炎、衛生状況のモニタリングや原料乳受け入れ現場でのスクリーニング検査の効率化を実現できます。

測定項目：細菌数(IBC、CFU)、体細胞数

測定対象：生乳



【MilkoScan™ Mars】 FT-IR乳成分分析装置

生乳成分を1分で測定する、コンパクトモデル！

生乳の品質管理、原料乳の標準化、製造管理の効率化を高い次元で支援します。

測定項目：脂肪、タンパク、乳糖、全固形、無脂固形、氷点(加水)

測定対象：生乳、製品乳



【NIRS™ DS2500F】 NIR分析装置

飼料、飼料原料の複数成分を1分で同時分析！

TMRセンターでの飼料設計、飼料品質の最適化を支援します。

測定項目：脂肪、タンパク、水分、灰分、スターチ、粗繊維など

測定対象：飼料、飼料原料、配合飼料

フォス・ジャパン株式会社

セールス・サービス拠点：札幌・大阪・福岡

TEL: 03-5962-4811 / Mail: info@foss.co.jp

ANALYTICS BEYOND MEASURE

ホンモノは、おいしい。
OHAYO

謹 賀 新 年

カラダの健康を、根本から。

今日からはじめる体内菌質ケア

「日々お口にするものから、大切な人の健康を支える存在でありたい」
そのような想いから、カラダの根本を考え、体内にすむ500兆個の細菌バランスへのアプローチに着目したロイテリ乳酸菌ヨーグルトを開発しました。

ロイテリ乳酸菌は、
お口から腸まで、様々な場所に生きて届く、
細菌バランスを考える方に送りたい、
特別な善玉菌です。

ロイテリ乳酸菌ヨーグルトを通じて、
おいしさを楽しんでいただきながら
お客様とその家族の健やかな笑顔を増やしていきたいと、
強く願っています。

家族で
つづける
新習慣

お口から
腸まで
生きて届く

ヒト由来の
乳酸菌



●商品名：ロイテリ乳酸菌ヨーグルト ●種類別：発酵乳 ●内容量：110g
●成分：無脂乳固形分 10.0%／乳脂肪分 2.0%
●原材料名：生乳(国産)、乳製品、乳たんぱく、ゼラチン／甘味料(キシリトール)
●賞味期間：17日間(未開封) ●保存方法：要冷蔵(10℃以下) ●販売地域：全国
※キシリトール配合のため、体質によりおなかの緩くなる場合があります。※ペットには与えないでください。

オハヨー乳業株式会社

高知競馬開催案内(2026)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

1 月				2 月			
開催日	備 考			開催日	備 考		
1 木 ◎	夕焼けいば			1 日 ○	ナイター		
2 金				2 月 ○	ナイター		
3 土				3 火 ○	ナイター		
4 日				4 水			
5 月				5 木			
6 火				6 金			
7 水				7 土			
8 木				8 日 ○			
9 金				9 月			
10 土 ○	ナイター			10 火 ○			
11 日 ○	ナイター			11 水 ○			
12 月 ○	ナイター			12 木			
13 火 ○	ナイター			13 金			
14 水				14 土			
15 木				15 日 ○			
16 金				16 月			

ホ ッ ト ニ ュ ー ス

令和7年度おかやまフォーベルネット第2回研修会を開催しました！

令和7年12月10日(水)、まきばの館にて、びほくトマト部会女性部の皆さまと異業種交流会を開催しました。津山圏域消防組合旭出張所のご協力のもと、農作業中の事故を想定した応急手当講習を実施し、打撲・打ち身への対応を中心に三角巾の使い方や止血法、熱中症やハチ刺傷時の対処法を学びました。その後、会員生産の畜産物と女性部会提供の野菜を使ったBBQを囲みながら各々の業種の活動などについて情報交換を行い、「おいしかった」「また購入したい」といった声が聞かれました。



あとがき

旅に出ると、思いがけない場面で人の優しさに触れることがある。先日、友人と地下鉄に乗った。車内には一席だけ空席があり、私は友人に座るよう促し、自分は立ったまま話をしていた。すると、友人の隣に座っていた男性が、静かに立ち上がり、私に席を勧めてくれた。一見して異国の人とわかるその男性に、私は一度は遠慮したが、彼は何も言わず、ただ扉の前に立ったままだった。その沈黙の中に、説明も主張もなく、背中で善意を置いていくような気配を感じた。私は彼に一礼して座らせてもらい、降車時にもう一度礼を伝えた。彼は少し照れたように視線を逸らし、足早に階段を上がっていった。その後ろ姿を見送りながら、思いやりを自然に差し出すことが当たり前で育った人なのだろうと感じた。今の日本は、他人を思いやる余裕を失いつつあるのかもしれない。それでも、ほんの一瞬でも周囲に目を向け、言葉にせずとも思いやりを手渡すことができたなら、その一日は少し温かいものになる。私はそう信じている。(H.F)

岡山畜産便り 1月号(新春号)

第77巻 第1号(通巻720号)
令和7年12月26日発行
定価250円(消費税・送料含)

発行人 中塚陽二郎 編集人 藤原裕士
発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会
〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階
TEL 086-221-0511 FAX 086-234-6031
印刷所 ノーイン株式会社

謹 賀 新 年

生乳集荷の「安全・安心」な輸送業務に取り組んでおります。

株式会社 きびじ酪農運輸 代表取締役 笹野 英明

本 社 〒719-1156 総社市門田70-1 TEL(0866)93-8790

阿曾事務所 〒719-1103 総社市西阿曾前田193-4
TEL(0866)99-8300 FAX(0866)99-8301



腐植・フルボ酸で 畜産のあらゆる課題を解決！

腐植土とは

落葉樹の落ち葉と有機物と無機物が約8,000年もの間地中に埋蔵され、発酵と熟成を繰り返して生成されました。フミン酸、フルボ酸、天然ミネラル、アミノ酸、ビタミン、有用菌などを豊富に含むユニークな土壌です。フミン酸、フルボ酸の化学構造や種々の性質は未解明な部分も多い神秘的な物質です。



▲ 腐植ペレット

▼ 腐植粉剤



排水処理

浄化促進・悪臭防除・汚泥改質

堆肥

無臭化・発酵促進・土壌改良

補助飼料

発育促進・飼料節約・疾病防止

飲水改善

水質改善・発育促進・疾病防止



エンザイム株式会社

腐植土とともに環境と健康を考える

〒143-0016 東京都大田区大森北2-3-16 第一かぎわだビル4F
TEL : 03-5493-2771 FAX : 03-5493-2776 MAIL : info@enzyme.co.jp
担当 : 末吉 (090-5704-0011)
HP : <https://www.enzyme.co.jp/>

